

私たち ZAWAMEKI の活動は今から28年前から始まりました。当時2歳11ヶ月の息子が「イエス様を信じれば」という曲を作詞作曲したのです。それをきっかけに、突然賛美が天から降ってくるということが起こるようになりました。それとともに日本のリバイバルを求める祈りが起こり、賛美も動きはじめ、1993年に全日本リバイバル甲子園ミッションを開催し、ZAWAMEKIのCD化もされました。そこから現在に至っています。賛美とは、心から神様を褒めたたえて、崇めることです。賛美は私たちを清めて、強めて励ます力がありますが、それだけではなく、賛美を通してリバイバルが大きく前進していきます。この町が変わるために何をするか、それは賛美をすることです。この地上は悪魔の支配下にあります。だから、苦しみ、悲しみ、問題があります。でも、そんな暗闇を打ち破るために神様は賛美を下さいました。日曜日に教会へきて礼拝し、賛美することはとても大切です。賛美して、暗やみを打ち破り、すっきりして、また、それぞれの遣わされたところへいき、それぞれの闇を破るために賛美する。そう信じて賛美し続ける時、皆さんの家庭で、地域で、岡山、そして日本が変わっていき、世界へ、リバイバルが拡大していきます。

### ■ イエス様の夢をかなえる教会

イエス様が、地上に来られる日が非常に間近に迫っています。その前にリバイバルを起こそうとなさっています。その為に皆さんを選んでくださいました。その皆さんに与えてくださった、神様の計画は計り知れない大きなものです。地位、権力、お金、知識を持っていても、神様とともに居なかつたら悪魔の力を打ち破ることは出来ません。だから、この地域の祝福を得るためにイエス様を信じて、賛美して、歩み続けなければなりません。私たちはリバイバルを求めて、ただそれだけを求めてやってきました。その私たちにイエス様は、私の夢をかなえる教会。私の夢をかなえてくれ。とおっしゃいました。皆さんお一人お一人にも語ってくれています。神様の計り知れない計画を全うするために励んでいきましょう。

### ■ 一步一步歩む。風に助けられて

刑務所でコンサートをさせてもらった時のことです。服役中の人たちみんな感動してくれました。その中に一人号泣している人がいました。その人は出所したら、教会へ行くと行っていましたが、教会では会えず、一年後再び歌いに行ったとき一度出所して再び帰ってき

た彼と再会してしまいました。一度刑務所に入ると出所しても、仕事もなくまた、犯罪を犯してすぐに刑務所に入る人は多いそうです。失敗して失望しての繰り返しかもしれません。また、服役中の方は出所が決まると、とても不安定になるそうです。出所が決まって嬉しいはずなのに、不安になるのです。そのような方に対しても、イエス様は変わらぬ愛で、優しく手を伸べて、一步一步歩めばよい。これが道だこれに歩めと言われているのをその時感じました。なんと素晴らしい神様の愛だと思います。リバイバルの道も同じです。いろいろな方法を試してみたりしますし、本当にリバイバルは起こるのかと思うことがあります。でも、神様は私たちと共にいてくださいます。一步一步、歩めばよい。と言われています。リバイバルを起こされると信じて祈りつづけ、歌い続けていただきたいです。

### ■ 賛美には本当に力があります

草加の駅前で歌った時のことです。多くの方が感動してくれました。駅前に天からガラスのエルサムが降りてきたようだった。と表現して下さる方もいました。もっと、外に出て、賛美して、神様のご臨在を表していきたいと思えます。路上で歌うとすごいことが起きます。号泣する男性の方、若者、ご夫人それぞれ感動を表してくれました。またある春の温かい日差しが差し込むところに男性の方から川柳をいただきました。そこには「～春の日差しが信じぬ者にもしかと包みて～」と書かれてました。神様を知らない方でも賛美を聴くことで何かに包まれているように感じたようです。こういった出来事を通して賛美には力があることを感じます。

神様は世の人々を同じように愛しておられて、すべての方に働かれる方であると感じつつ、ただ、時代は大変な時代になっています。壊れきっている時代だからこそ変わらないイエス様。その方に目を向けて歩み続けていきたいと心から願っています。イエス様ご自身がこれが道だこれに歩めと語って下さる道を信じて歩んでいけば、必ず神様は素晴らしいリバイバルをこの地に表して下さると信じます。神様が与えてくださった賛美という剣を振りかざして、歌い続けていきましょう。